

北アルプス（白馬岳周辺縦走）

【報告・参加者】 T 寄

【日 時】 2019 年 9 月 29～10 月 3 日

《 報 告 》

【9 月 29 日】 曇り後雨

白馬駅 05:55⇒06:25 猿倉 06:40 → 小日向のコル 08:40 → 10:05 白馬鑓温泉 10:20 → 稜線分岐 13:00
→ 13:20 天狗平 CS



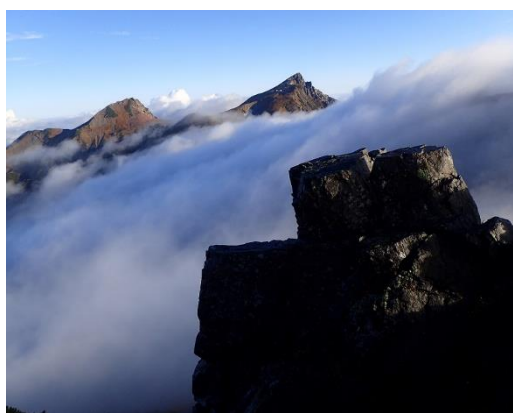
朝一のバスで猿倉へ。乗客 5 名でガラガラ。身支度を整えて出発するが、皆様は白馬尻の方角へ。

白馬鑓温泉小屋は解体中。全て解体するのに一週間弱、組立てるのもほぼ同日数とのこと。

2200m を超えた辺りから雨が降り出し、大出原からは強風も加わる。稜線に出たら飛ばされそうな風であった。天狗山荘は外組は出来上がり、内装の工事中であった。夜中もテントのポールが折れそうな強風が吹き荒れていた。

【9 月 30 日】 曇り

CS05:40→ 06:25 白馬鑓ヶ岳 06:35→ 08:20 白馬山荘 08:45→ 白馬岳 09:05→ 三国境 09:30→ 10:55 雪倉岳小屋 11:10→ 雪倉岳 11:50→ 13:30 常水 13:45→ 水平道分岐 14:05→ 15:30 朝日平 CS



< 白馬鑓ヶ岳からの白馬岳・旭岳 >



< 朝日平から白馬岳を望む >

風が余りにも強いので陽が出てから出発した。白馬鑓ヶ岳でガスが晴れ風も弱まって晴天となる。

白馬山荘で休憩させてもらい、台風の予報を確認する。今回の山行中には影響はなさそうである。

白馬岳山頂では劔岳の威容を堪能する。無人であった。

三国境から白い砂礫の道を進む、白が眩しくサングラスを出そうかと迷う位の好天である。雪倉岳避難小屋の石壁に凭れ日向ぼっこをしながら行動食を頬張る。ザックのポケットに入れていたスニッカーズが溶ける位に気温が高い。

雪倉岳の下りで、トレラン風の若い男性に道を空け「日本海からですか？」と声を掛けたら「ハイ、夜 7 時に日本海をスタートしました」とのこと。19 時間歩き詰めの様子。トレーニングで歩いている人が居るとは聞いていたが、実際に会ったのは初めてである。私でも、朝日小屋までなら出来るかもしれない、と思ってしまった。常水で休憩し小桜ヶ原の紅葉を楽しむ。

水平道のアップダウンに疲れたころ朝日平に到着した。朝日平は初めて来たが、高山植物に囲まれ、白馬岳も望まれ、心が伸びやかになる良いテン場であった。

【10月1日】 晴れ

CS 06:00 → 06:50 朝日岳 07:05 → 07:30 千代ノ吹上 07:40 → 花園三角点 09:40 → 白高地沢出合
10:40 → 瀬戸川出合 11:35 → 12:20 兵馬ノ平 12:35 → 13:15 蓮華温泉 CS



＜木道が伸びる五輪高原＞

今日の行程は短いのでノンビリと出発する。良い天気である。朝日岳山頂から遮るもののない360度の展望を楽しむ。南西に雄山・劔岳北方稜線・毛勝山、東に雨飾山・妙高山、北に長母山・犬ヶ岳の梅海新道が望まれる。千代ノ吹上で昨秋歩いた梅海新道の回想に耽る。八兵衛平、五輪高原の草紅葉は綺麗であった。こちらから見上げる朝日岳はデカイ！

五輪高原の水場で休憩する。広々とした高原で気持ちが良い。

急坂を下り白高地沢出合へ。白高地沢は広い河原に大きな鉄製の橋が架けられていた。



＜山気ノ湯＞

次に渡る瀬戸川は雪倉岳・白馬岳から沢が流れ込んでおりゴージャスと水音を轟かせていた。こちらも鉄製の頑丈な橋である。アヤメが群生する広い湿地の兵馬ノ平で休憩。5月に訪れたらさぞかし綺麗で壮観だろうと思う。

ロッジで受付をし、山気ノ湯で汗を流す。テン場はロッジから7～8分戻った所にある草原で、鉾山道の入口に近い。

テン場にはトイレや炊事棟が整備されていた。利用者他に無し。ロッジの方いわく「鉾山道は他より紅葉が早いので是非行って見て下さい」と勧められる。明日の鉾山道の紅葉を期待して、早々に寝る。

【10月2日】 曇り

CS 06:00 → 瀬戸川 06:55 → 神ノ田圃 08:40 → 08:55 水場 09:10 → 10:45 稜線分岐 11:00 → 三国境 11:40 → 12:20 小蓮華山 12:30 → 13:30 白馬大池 CS



＜池塘から鉾山道の上部を見る＞

鉾山道の名は、上杉謙信が開いた小さな銀山が由来だそうだ。

瀬戸川の鉄パイプの橋を渡ると、いよいよ鉾山道である。

カエデが数多くあるが、紅葉せずに病葉になっている。

池塘のある神ノ田圃辺りから黄葉が見られ、眼前には蓮華菱が現れる。地図に水場表示の雪倉上ノ沢で休憩する。

鉾山道は尾根の中腹をトラバース気味にルートがつけられているので、数多くの沢を横切る。やはり天気が悪い時には選択してはいけない道である。鉢ヶ沢沿いに詰め上がり、白いザレ

を登ると稜線分岐である。三国境では白馬岳へ行くことも考えた

が、割愛して白馬大池へ直行した。雷鳥坂で親子の雷鳥に遭遇した。秋の山は無常を感じる。

樹にしがみついているカエデの病葉が、テント泊の単独行に拘っている自分の老躯に重なって思われた。

出掛けに妻から言われた言葉が頭から離れない。「電波の届かない山域に一人で行っているのを待つのが精神的にも辛くなってきた。マラソンだったら全国どこでも一緒に行けるのに…。」

あと2年で古稀、ポチポチ方向転換を決断する時期かもしれない。まだ元気な積りでいる時に…。

【10月3日】 小雨

CS 06:10 → 天狗原 07:20 → 08:10 梅池自然園 09:00 ⇒ 梅池高原⇒白馬駅⇒14:01 松本

霧雨の中、テントを撤収し、テン場を後にする。大池湖畔のゴロー帯を進むが霧で視界なし。最高点付近に大きなケルンが在った。積雪期に視界が無かったら迷いそうな所である。木道が出てきたら天狗原である。もっと大きな湿原かと思っていたが、意外と小さかった。

ロープウェイとリフトを乗り継いで梅池高原へ下山したが、その速さ、その楽しさの凄いこと。下山したという安堵感が全くなく、その安直さに涙が出た。やはり、私の性分には合わないようである。

高原のショップでリンゴを齧りながらバスを待ち、白馬駅では足湯に浸かりながら列車を待つ松本へ。

翌朝は、ホテルへ送っていたランニング用品に着替えて、松本マラソンスタート地点の総合体育館へバスで移動し、コースを試走した。鈴木鎮一記念館に寄ったり、松本駅から列車を使ったり、折り返し部分を割愛したりしてゴール地点の陸上競技場までの約 27km を走った。帰りのバスを待っていた空港では、台風の影響による強風で欠航するかもしれないとの、アナウンスをしていた。

2時頃ホテルに戻りシャワーを浴び、妻に頼まれていた買い物を兼ねて街歩きに出る。

10月5日は、松本市美術館で田村一男の作品を鑑賞して、午後の列車で帰福した。

『野に生ふる 草にもものをいわせばや 涙もあらん うたもあるらん』 <田村一男>



遠景の左から雄山・劔岳・大日三山・毛勝三山・サンナビキ山・うっすらと白山（朝日岳より）